7　風害

(1)風害の様相

　風害には風の種類によって台風害，季節風害，局地風害等がある。また，風の性質によって強風害，潮風害，温乾風害，寒風害などに分けられる。
　風害は風の機械的な力により，果菜類は葉の裂傷，枝の折損，落果，風ずれによるすり傷を生じる。葉根菜では生育初期に株がねじられたり，葉の裂傷がおこる。風はまた蒸発散を促進するため，体内水分の不足による生理的障害をおこす原因となる。生理的障害の発生は温乾風の場合に顕著になる。その他風害の程度を左右する条件としては，風に含まれる塩分の量，野菜の種類，生育時期，品種，生育状態，病害虫発生の有無，耕地条件などをあげることができる。

(2)災害対策

ア　事前対策

(ア)果菜類

a　防風ネットを活用する。

b　収穫期にある果実は，台風の接近する前に少し若くても収穫して株の負担を軽くする。

c　雨除けハウスはサイドビニールを下ろし，妻部分もビニールを張り，すき間風が入らないようにする。ハウスには筋交いを丁寧に入れ，浮上り防止策として杭をしっかり打ち込み，ビニール押さえのテープを張り直す。また，ハウス周囲の整理，整頓をして風で飛ばされるものが無いようにする。

(イ)葉根菜類

a　台風が接近している場合には，播種期や定植期が遅れても台風通過後に行う。ハクサイ，ダイコン，ホウレンソウなどの秋野菜の発芽後間もない幼植物は台風の直撃を受けると豪雨に叩かれて，風にもまれ地際から折れて飛んでしまい全滅する場合もある。せっかくの播種，間引き作業も徒労に終ってしまう大被害となりやすい。

b　これら葉根菜の播種直後は切ワラやクンタンなどで播種部分を被覆し，大雨で地面を直接叩くことによる土壌侵蝕や表面の土膜形成を少なくするように心がける。

c　間引き後は株元が動揺するので，間引き作業も台風通過後に行う。また台風前には株元に軽く土寄せを行って少しでも株の動揺が抑えられるようにする。秋野菜は地上部の発育の割に根の伸びが貧弱であるから，間引き時期が多少遅れても台風の通過後に行うのがよい。

d　収穫間近の野菜は急いで収穫して減収の回避に努める。

イ　事後対策

　台風の被害は強風と豪雨による機械的障害と同時に冠水，滞水による湿害が大きい。

(ア)支柱の立て直しと誘引

　強風雨によって抑制キュウリ・トマト・インゲン等で支柱のゆるんだもの，倒れかけたものは立て直す。事前に倒したものは元通りに支柱立て誘引・整枝して十分に薬剤散布を行う。

(イ)草勢の回復をはかる

殺菌剤散布による病気の予防をする。果菜類では葉数が減少しているので摘果などにより樹勢の回復を図る。

ウ　恒久的対策

　風害の常習地では防風林や防風垣をつくり，風を弱めることが最も根本的な対策である。これに用いられている樹種は針葉樹では赤松，黒松，ヒノキ，広葉樹ではカシ，シイ，ツバキ，茶，マサキ，ケヤキ，クリ，ニセアカシヤ，ポプラなどである。